

今

年で第4回を迎える梅棹忠夫・山と探検文学賞に、福岡市の非政府組織「ベ

シャワール会」の現地代表で医師の中村哲さんが書いた『天、共に在り』(NHK出版)が決まった。

同賞は、民族学者、文化人類学者で学術探検家でもあった梅棹忠夫氏の功績を称え、設立された。

中村哲さんは、1946年福岡県生まれ。84年にパキスタン北西部のベシャワールへ渡り、ハンセン病の治療に携わる。その後、「ベシャワール会」を設立し、募金を集めて国境を越えたアフガニスタン山間部の無医療地帯に診療所を開設。多くの患者が栄養失調だったことから、必要なのは薬よりも食料を作る畑と確信する。

しかし、そこに立ちふさがったのが、深刻な大旱魃だった。水源の水河や雪が減少し、湧き水が枯渇。夏期の急激な雪解けが川の氾濫を招き、その後の異常な水位の低下で、農村は砂漠と化していた。そこで、中村さんは、住人と共に1600本の井戸を掘り、25kmに及ぶ用水路を作り上げた。受賞作は、中村さんの半生と30年及以上現地活動を描いたものだ。

選考では、「ゆるぎない信念のもとに異国で続けてきた活動を、余計な言葉も感慨も削ぎ落とした平明な文体で綴り、常人の及ぶもつかない姿が迫ってくる」と賞賛を集め、受賞が決定した。中村さん



1 マルワリード用水路。2003年、人海戦術で掘削
2 同用水路の6年後の様子
3 2013年から取り組んだ水車

第4回梅棹忠夫・山と探検文学賞、中村哲さんの『天、共に在り』が受賞

吉田智彦=文 中村 哲=写真



【天、共に在り】
昆虫好きで、モンシロチョウの原産地に近いアフガニスタンの山へ向かった著者が、自然に魅せられ、現地へ赴任し、人々との信頼関係を築きながら水路を完成させた足跡を描く。
NHK出版 ☎0570-000-321 四六判 260ページ 1728円 13年10月刊

は「尊敬していた梅棹さんの賞をただで光栄です。また、自然に関する賞というのが感慨深い」と受賞の喜びを語る。
そして、現地での取り組みは、今も広がりを見せている。
「アフガニスタンと日本の政府も参加し、新たな地域で用水路へ水呼び込む取水施設を復活させ、60万人が安心して暮らせるモデル地区が完成間近です」
と中村さんが言うように、国家的規模の事業に成長しつつある。
一方で、この大干魃は、今もほとんど世界に知られていないとも。「世界中が都市化し、問題を人間だけの都合で考え、解決した気になっている。物事の背景を見る目が失われていると強く感じます。もっと自然と向き合って生きていかなければいけない」
時流や情報に流されず真実を見つめ、未来を開く中村さんの言葉は、国境や民族を越えて地球という環境で生きるための指標を僕らに示している。